

1 自己評価

I 評価結果（別紙参照）

II 分析・改善方策（詳細は別紙参照）

- (1) 学力の向上：大学入試共通テスト、新学習指導要領に対応するために、基礎基本の充実と探究的な活動が両立する授業を実践し、確かな学力の向上を図り、それぞれの生徒の可能性が広がる進路保障を行う。
- ・全教科においてアクティブラーニングの質を高める取組を実施し、生徒による授業評価の向上がみられた。生徒の進路実現に対応するために、さらなる学力向上の取組が必要である。
 - ・新学習指導要領について、教育課程委員会で改訂のポイントを整理し、各教科で研究を進めている。令和4年度からの本格実施に向けて、新しい教育課程を編成していく。
- (2) 生徒の主体性の伸長：SSH事業、グローバル教育、委員会活動などを通じグローバル化、AI化する社会に対応するため、生徒の主体性を伸ばし、新たな時代を生き抜く力を身につけさせる。
- ・SSHの取組が定着し、各種コンテストでの入賞実績が向上し、生徒・保護者・教員ともに、学校自己評価アンケートの肯定的回答率が上昇している。
 - ・多文化共生ワークショップやイングリッシュセミナーの開催、留学生の受入や留学の推進等、異文化に触れる機会を多数設定し、留学や海外研修等、海外体験をした生徒数が倍増した。
 - ・生徒会や委員会活動が活発になり、ボランティア活動に参加する生徒が千名を超えている。多様な活動を記録するシステムの整備や玉高手帳の活用が今後の課題である。

2 学校関係者評価委員名

岡本 弥彦（岡山理科大学 教授）
中塚 裕和（太陽トラベル株式会社 代表取締役）
猪木 直樹（玉島市民交流センター センター長・玉島高校同窓会 会長）
弘中 明子（玉島高校PTA 副会長）
桑原 敏典（岡山大学大学院教育学研究科 副研究科長）
山根 敬仁（倉敷市立玉島北中学校 校長）

3 学校関係者評価

- ・学校経営目標の各項目について、具体的計画や達成基準が設定できており、学校自己評価アンケート等の結果をもとに、適切に学校評価が行われている。
- ・主体性の伸長のために多様な取組を積極的に行いながら、学力向上のために授業改善にも熱心に取り組んでいる。さらに、生徒に自信や誇りをもたせるよう工夫するとよい。

4 来年度の重点的な取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- (1) 生徒が意欲的に学ぶ工夫や仕掛けのある授業を実践すると共に、読む力、書く力、計算する力など、深い学びに必要な基本的能力を鍛える。
- (2) 科学的な思考に基づく探究活動や課題研究により生徒あらゆる力の伸長を図る。
- (3) ものの見方、考え方、感じ方の多様性を認識し、コーチングマインドにより生徒の自己肯定感を高める。
- (4) あいさつの励行や言葉づかい、清掃など身の回りの環境整備、社会法規や校内規則の遵守など日頃の指導を充実させる。
- (5) 真の「文武両道」が実践できる仕組を整える。
- (6) 生徒の視野を世界に広げ、グローバル社会に対応できる国際感覚を身につける。
- (7) 生徒及び保護者に対し、機に応じて進路情報を伝え、確実な進路選択を図る。
- (8) カウンセリングマインドを持ち、観察と声掛けによって生徒の心身の健康を保つ。
- (9) 中学生とその保護者や地域への積極的な情報発信を行う。
- (10) 時間管理の徹底により、生徒の学び方改革及び教職員の働き方改革を推進する。

